

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	3	事業名	社会資本整備総合交付金(道路事業)		路線又は箇所名等		主要地方道 鎌ヶ谷本埜線バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成 8年度	用地着手年度	平成 8年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成10年度 令和4年度	再評価の理由	再評価		
費用便益比 B/C	1.8 (11.6)	総費用	95億円 (14億円)	総便益	168億円 (168億円)	基準年	令和 2年度	供用開始 年度	令和 3年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

主要地方道 鎌ヶ谷本埜線は、千葉県の北部に位置しており、鎌ヶ谷市初富地先を起点に国道464号の一部と重複し、印旛郡栄町安食ト杭を終点とする延長約31キロメートルの重要な幹線道路である。

このうち、本バイパス事業区間の現道部においては幅員が狭くカーブも連続しているなどの未改良区間であることから、交通の走行性や安全性、利便性の向上を目的として、印西市萩原から印旛郡栄町安食までの延長4.5キロメートルのバイパス整備を進めているものである。

- ・総事業費：71億円
- ・事業延長：L=4.5km
- ・事業期間：平成8年度～令和4年度

【事業の進捗状況】(令和2年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	71	58	13	82%

【社会経済情勢等】

- ・事業区間の現道部は幅員が狭く、急カーブが連続しており、車両同士のすれ違いが困難である。
- ・第三次救急医療機関の日本医科大学千葉北総病院への救急搬送は、幅員が狭く、急カーブも多くあることから、患者への負担軽減のため現道を利用せず、市道へ迂回している。

【対応方針(案)】 継続

事業全体の費用便益比(B/C)が1.8(残事業11.6)であり、事業の投資効果が見込まれる。整備効果として、バイパス整備による移動時間の短縮、周辺道路の交通の円滑化による交通事故の減少、搬送時間短縮による救命率の向上が期待される。

供用目標を公表し、着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

【別紙様式 4】

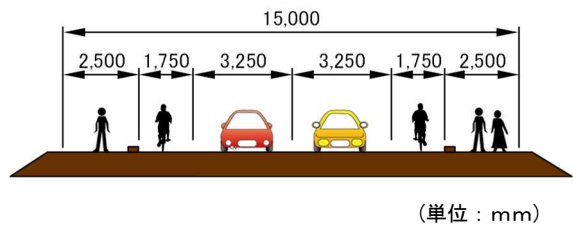
事業概要図

番号	3	事業名	社会資本整備総合 交付金（道路事業）	路線又は箇所名等	主要地方道 鎌ヶ谷本埜線バイパス
----	---	-----	-----------------------	----------	---------------------

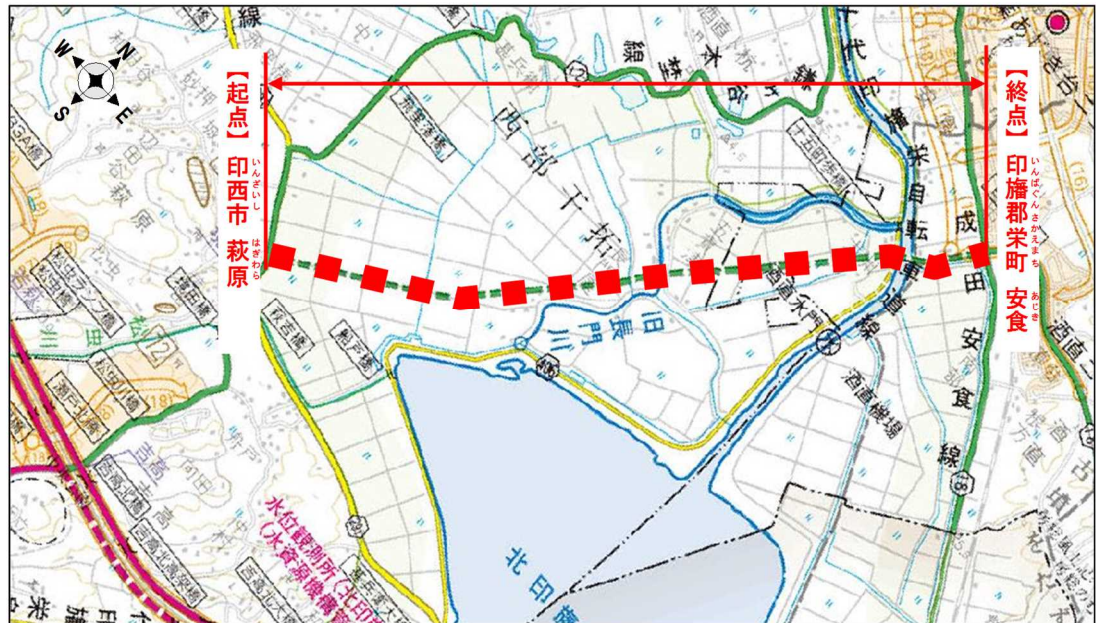
位置図



標準断面図



平面図



- 凡例
- 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般県道
 - 有料道路
 - その他道路

【別紙様式5】

再評価事業に関する調書

番 号	3	事 業 名	社会資本整備総合 交付金(道路事業)	路線又は箇所名等	主要地方道 鎌ヶ谷本埜線バイパス
事業化年度	平成8年度	用地着手年度	平成8年度	工事着手年度	平成10年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成27年度	供用開始年度	平成31年度	対応方針	継続
B/C	2.2 (5.7)	総費用	68億円 (26億円)	総便益	147億円 (147億円)
(※上段：全体事業 下段：()：残事業) 再評価時の委員会の意見及び当時の状況 継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の5年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況(H26)	5年後の想定進捗状況		
全体事業費	59億円	35億円(59.1%)	59億円(100%)		
うち用地・補償費	9億円	9億円(99.3%)	9億円(100%)		
うち工事費	50億円	26億円(52.1%)	50億円(100%)		
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	令和2年度	供用開始年度	令和3年度	対応方針	継続
B/C	1.8 (11.6)	総費用	95億円 (14億円)	総便益	168億円 (168億円)
※上段：全体事業費 下段()：残事業費 現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (R02 末見込み)			
全体事業費	71億円	58億円(81.8%)			
うち用地・補償費	8億円	8億円(100%)			
うち工事費	62億円	49億円(79.3%)			
再評価後の経過及び処理状況	・平成27年度 再評価(継続が妥当である) ・工事、用地交渉を継続実施				